

---

 専門日本語教育関係機関紹介
 

---

 日本人学生パートナーとのプロジェクト授業を中心とした科学技術日本語学習  
 -金沢工業大学日本語教育特別プログラム (KIT-IJST)-

札野 寛子 (金沢工業大学日本語教育プログラム)

本学では、毎夏「金沢工業大学日本語教育特別プログラム (Kanazawa Institute of Technology-Intensive Japanese for Science and Technology: 通称 KIT-IJST)」を開催している。2004年度は、前身のプログラムを含めて通算 11 回目の開催であった。本稿では、日本人学生と 1 対 1 のペアで取り組む科学技術プロジェクト授業を中心に、プログラムの概要を紹介する。

【対象】米国協力協定校 3 校 (ローズ・ハルマン工科大学、ロチェスター工科大学、イリノイ大学アーバナ・シャンペイン校) の理工系専攻学部学生、各校 10~15 名程度、「科目等履修生」として受け入れ

【参加のための条件】最低日本語を大学レベルで 1 年既習であること。毎年参加者の 1/3~半数が 1 年、残りが 2~3 年既習

【期間/実施時期】6 月初旬より 6 週間

【プログラムの目的】留学生に対して：1) 日本語能力の向上、2) 日本文化・社会理解力の向上、本学日本人学生に対して：国際交流意識の啓蒙

【履修科目および修得単位数】一般日本語科目 4 単位、科学技術日本語科目 4 単位、日本事情科目 4 単位 (4 単位=60 分授業 x 40 コマ)、本学の正式の単位として認定

【教師陣とクラス編成】日本語担当：本学教員および非常勤講師 6 名、日本事情担当：米国人非常勤講師 1 名、日本語は能力別に 3 クラス編成、日本事情は 1 クラス

【科学技術日本語授業概要】科学技術日本語科目は、講義中心の 20 コマとプロジェクト授業の 20 コマから成る。講義授業では、自作の『科学技術基礎日本語：留学生・技術研修生のための使える日本語』『同一読解編』の一部教材を用いて、基本的な科学技術表現 (例：数式表現、単位、図形名称、簡単な操作表現) およびコンピュータ操作表現を学習する。また、これらの表現を用いたテキストで読解学習と、その内容についての口頭発表練習も行う。

プロジェクト授業では、講義で学習した表現などを利用して、日本人と科学技術的な内容について基本的なコミュニケーションができることをめざす。今年度は、「ペットボトルを使った自力走行する車製作」に取り組んだ。過去には、「バルサ材を用いた橋製作」や、「こんなものあったらいいアイデアコンテスト」なども行った。授業は毎回 3 コマ連続で実施し、学内のさまざまな施設を利用する。技術的な質問には、各施設の専門技術指導員から助言を得ることができる。各回終了時には、留学生は、その日の作業内容と新たに憶えた日本語表現を記述する進捗レポートを提出する。作品ができあがると、スピードや強度を競うレースやデザインの投票を行う。このコンテストには、学長も出席し、最優秀作品には学長から賞状が授与される。またコンテスト後には、作品のサイズや特性、制作費などを日本語でまとめた A0 サイズのポスターを用いて、留学生が日本語で口頭発表を行う。これを、6 名の日本語担当教員が採点する。成績は、これらの進捗レポート、ポスター内容および口頭発表を中心に集計する。

【プロジェクト授業に対する留学生の反応】個人差はあるが、20 時間に渡って日本人パートナーと課題に取り組むことで、日本語で話すことにはかなりの自信を持てるようになる。科学技術表現についても、特にプロジェクトに関するものを中心に理解が進むようである。しかし、各学生の専攻分野とプロジェクトテーマの関連や、日本人パートナーとの相性によって、留学生の満足度と学習成果には、毎回かなりのばらつきがある。

【授業実施の課題】前半の講義科目とプロジェクトの内容をより有機的に関連づけることと、文系出身の日本語教員でも指導可能で、かつ専攻分野により得手不得手が起こらないような楽しいプロジェクトテーマを選定することが毎回の課題である。